

「株式会社 姫路シティ FM21」

第43回 放送番組審議機関 審議会議事録

1. 開催日時 平成23年3月7日(土曜日) 午後2時00分～午後3時30分

2. 開催場所 姫路市本町68イーグレひめじ地下2階 ミーティングルーム

3. 出席状況

1) 委員総数 11名

2) 出席委員数 8名

3) 出席委員の氏名(敬称略、順不同)

岩成 孝	梅宮 功	大谷 昭仁	鎌田賢太郎
岸田 直美	衣笠 愛之	福井 舞	柳谷 郁子

4) 欠席委員の氏名(敬称略、順不同)

有馬 妙子	宮本 節子	井上 重義
-------	-------	-------

5) 会社側出席者氏名

白井 正敏	(専務取締役 放送局長)
山南 俊雄	(常務取締役 営業部長)
小幡 博	(営業企画 課長 兼 放送総務 課長)
小林 寛幸	(放送総務部編成制作担当)

4. 議題

(1) 放送局長挨拶

本年度最後の番組審議会である。2年間の任期が3月末で切れることになる。新たに委員を委嘱したく考えている。今年度は「得するラジオFMゲンキ」として取り組んできた。その中で、加古川BAN-BANラジオとのネット番組にも取り組んでおり、好評である。

新たなものとして、インターネット放送(サイマルラジオ)があるが、人気が出てきている。交通情報についても、ジャティックと提携して西播磨一円の情報を提供している。5月には市民電話聴取率調査として1000人に電話をかけて約200名からの回答を得ることができた。7月1日には、黒田官兵衛シンポジウムを実施した。株主還元事業については、姫路城修理応援キャンペーンとして放送している。

再免許については、11月1日にあらたに許可がでてきている。実験番組として、「つながるアワー」というものをサイマルラジオのPRをかねてやっている。パーソナリティ養

成講座では、オーディションにより2名の合格者をきめた。市民を対象とした体験講座も実施している。ラジオクラブの交流会やスタッフ研修会にも取り組んでいる。

22年度も順調に推移できた。来年度は、開局10周年の年である。23年度からの3カ年計画を策定し、がんばっていききたい。

「ゲンキなラジオで皆を元気に、姫路を元気に、播磨を元気に」をスローガンとして掲げてやりたい。放送としては、地域密着のコミュニティ放送局として魅力と活力のある番組制作を通じて地域と市民活動の活性化に寄与するということを重視したい。

市民参加の一層の促進として、ゲストコーナーの活性化、公民館などの出張取材、ラジオクラブによる番組制作など多様な形で取り組みたい。インターネット放送の普及として、サイマルラジオの活用方策の検討と推進にも取り組む。

播磨地域のラジオ局として、周辺市町の情報発信にも取り組んでいるが、宍粟・神河・福崎についてはスポンサーになっていただくことができた。ラジオクラブの活性化にも注力したい。

開局10周年にあたっては、8月2日に関係者を招いた集いを開催する。6月27日（月）に、10周年の取り組みとしてGENKIラジオ新聞に掲載するものとして、大谷会長、岩成委員、有馬委員と姫路市長に出席いただく対談を予定している。

今回より青年会議所から鎌田委員にご出席いただいているので、ご挨拶頂きたい。

鎌田委員： 前年度の金山室長に引き続いて、本年度は私が参加させていただく。日ごろは各事業の告知について、協力頂き感謝している。分からない部分もあるが、より良い形になるよう意見をだしていきたい。

（2）平成22年12月度からの事業報告

資料を基に説明した。

5. 審議内容

事務局より資料説明・試聴のあと、質疑応答を実施した。

委員： スケジュールにB-1がないが関与しないのか？

課長： 後半なので入れていないが、姫路市より公共交通機関の誘導を依頼している。実行委員会からは、当日の交通関連の情報、迷子などに関する情報を期待されている。当日は、渋滞情報などを随時放送することになった

ている。

委員： 事前の準備として近畿大会があるが。

課長： 予算はすべて警備に使われると聞いている。放送は準備をかねた物を考えている。いずれにしても姫路市の本年最大のイベントである。人が来るのは見えているので、いかに事故無く行なうかということに協力したい。

委員： 現場の情報を知らせてもらえたら助かる。

課長： 会場も複数だと聞いているので、生放送を活用していかないとフォローできないはず。

委員： 会場のボランティアに携帯電話で情報を伝えてもらうというのは？

課長： 様々な情報も伝えて生きたい。

委員： 天空の白鷺から中継はしないのか？

課長： 事前の招待をもらっている。姫路市にオーダーしているが、エレベータの混雑が懸念されているので、そこが問題だろう。

委員長： 目の前だから取材を申し込むべきだ。

担当： エレベータが出来る前の見学会にはパーソナリティが参加した。取材は許可がでるかどうかわからない。混雑の中に機材を持っていくので、それが問題視される。

委員： 飛び出せ！街の元気人は枠がふえるのか？

課長： 枠は同じ。広報課の事業仕分けで、お願いしていたブッキング作業がFMゲンキの担当となる。

委員： スタジオでしゃべるといのは一般人は無理。実際に現場へきてもらって録音してくれたら、いいのだが。予算の許す限り週に1回でもやるべき。

委員長： 開局の時にしゃべってくれと言われて、大変緊張した。

委員： 音があったり臨場感があるほうが良いのではないかと。

課長： 元気も取材はやりたいが、マンパワーと経費の問題がある。

委員： 開局10周年について、元気人に出た方は優先的に招待しないのか？

課長： 5周年の時をふまえて、基本的に関係者、スポンサーなどを招待する。イーグレのホールが200人しか入らない。

委員： そういう人たちに、番組を作るのに1000円でもいいので貰うようにしたらいい。寄附は受付できるのか？

担当： 協賛と言う形ではないかと。

委員： 現場へ出るのにお金が無いのであれば、出た人が1000円ずつ出し合っという気持ちになる。予算がなければ、どこかから取ってくるべきだ。

委員： FMゲンキは元気が無いのか？

委員： お金が無いと聞いている。

課長： お金は無い。

委員： お金は無くても元気は出せるのでは？

課長： カラ元気なら・・・。

委員： お金が集まってくれば行こうかという気持ちになる。企業であれば、お

金を集めることをしないとイケない。

委員： スポンサーは減ってきているのか？

課長： 減っている。いろんなメディアでラジオは冬の時代と言われている。電通の資料でも、ラジオは昨年対比が何十パーセント減などとなっている。最盛期の半分といわれている。FMゲンキは昨年対比100%を維持している。

会長： よく頑張っている。

担当： 県域は本当に苦しいところがあるはず。先日も、新聞の記事に、放送局の合併が可能になるというニュースが出ていた。そこまで追い込まれている局が出ているのだと思う。

委員： 姫路の一番元気な企業をフリーマガジンに掲載して、「貴方の企業は元気だから、スポンサーになってくれ」といえば、社長はちょっとだそうかな？と思ってくれる。元気棒をつくって、新しい取り組みをやっている会社を出すようにしたらよい。

別件だが、CATVゆめさきのケーブルテレビのアナウンサーが上手ではない。テレビに映っている以上プロなのだから、FMゲンキの養成講座で育成したらどうか？

局長： CATVゆめさきは姫路ケーブルテレビが指定管理者となるのでまた変わるのではないだろうか。

インターネット関連について、本日欠席されている宮本副委員長より伝言を預かっているので披露したい。第41回審議会でも資料提供をさせていただいた。ラジオといえば音声だけの時代からインターネットを通じて動画の配信などへ進んでいる。今後色々な展開をする中で、インターネットを使った取り組みをがんばってやってほしいということだ。新聞記事などでも色々な局のことが紹介されているので、これは参考までに供覧したい。特に言われているのが、ここ数年、ツイッターやFACEBOOKが急成長し、YoutubeやUSTREAMもメディアとして活用されている。ラジオにおいても、ネット放送とUSTREAM・ツイッターの連動が有望である。ラジオの聴取率がどんどん減ってきているが、新たな展開として取り組んでいくべきである。そのよう中でも、FMゲンキでそれらの取り組みを現にやっているということで、色々に関心を寄せていただいている。

委員長： FMゲンキはかなり早い時期からやっていると思う。新しい企画を作ってどんどんやりなさいということか。

課長： 他局に聞いても、FMゲンキはあれこれやっているなあと言われるレベルである。

委員： JCが市長候補者討論会を行なうそうだが、あれは流せないのか？

課長： 事前告知でPRはさせていただいている。

局長： 今年10周年ということで、特に大きなイベントはできないが、それをフルに活用するというので、先日文学館が黒田官兵衛の大イベントをすることになっているが、FMゲンキとしても協力してやっていく。文化国

際交流財団とのイベントとも連携していく予定である。

委員：自治会ではどうか。

委員：先ほどから話を聞いていると、FMゲンキはスポンサーの募集を何もしていない。我々は聞いたことない。

委員長：スポンサー獲得についてということか？

委員：そうだ。事業の拡大で云々というのはあるが、実際にスポンサーになってもらうという話は聞いたことがない。どういう方法でやっているのか？

局長：放送では、ニュース・天気・交通情報への提供などについて、営業サイドでスポンサーを探している。スポンサーがついているのは20%ぐらい。また、フリーマガジンへのスポンサー掲載もしていただいている。すべて営業マンが1件1件回って依頼している。

委員：このような時代だから、なんとか自分の会社をアピールしたいと考えているはずだ。

課長：各スポンサーにはこちらから出向いて、営業をしている。ロックシティについてもこちらから営業をしてお願いをしている。スポンサーも無い予算の中で、広告方法を厳選している。

委員：26日のお城の展望台について、事前の見学会があるがいくのか？

担当：スタッフは参加するが、そこから放送ができるかどうかは向こうの許可の問題となる。

委員：向こうは宣伝になるから喜ぶのではないか？

担当：混雑の問題もあると思うのでわからない。人数が多く、もし事故がおきたら・・・ということになると、昨今は許可が出にくくなっていると思われる。

委員：自治会活動など、一生懸命されているところがある。来年補助金を貰って新しい事業をするが、スポンサーになろうか？

局長：ぜひお願いしたい。

委員：でもいくらなのか、普通の人には知らない。市民がつくるラジオ局として個人の名前でもいいので、だれそれが何時をお知らせしますと言うような物があっても良い。

担当：個人広告はできない。

常務：岩成会長がおっしゃったが、私も6年間広告営業をしている。昔のように決裁権限がほとんど現場にない。大阪や東京が一括して管理している。話ができたとしても、費用対効果となると話ができない。放送、テレビやラジオは効果が全く分からない、出せないということが多い。非常に難しくなっている。地元企業は景気が悪いのでなにもやらない。局長からも話があったが、ラジオやフリーマガジンなど、営業マンが可能性があるところにどんどん行ってやっている。

委員長：お寺にも営業が来る。お寺の紹介をさせてほしいとか、有名人を派遣するとか。相当どこも必死である。

局長： 番組の中でタイム販売として時間販売を行なっているものもある。安価にラジオ番組を持つことができる。それをもっとPRしていきたい。やりたい放送をしていただける。元ラジオ関西のアナウンサーが担当している番組があり、過去はスポンサーがあつたが現在は持ち出しでやっている。いい番組だからスポンサーが飛びつくか？といたら、そんなことはない。

委員長： 番組のなかで2割ぐらいスポンサーがついていると聞いていたがそんなものか？

局長： そのぐらいだと考えている。

課長： スポンサーの割合があり、同じような3セク放送局で行政比率が70%を超えるところもある。当社は3割であり、民間企業にも支えていただいている。

委員： 新番組のお知らせということでフリマガを見ているが、「しまちゃんねる」の評価と、それに対して今後の取り組みの計画はあるのか？

局長： 先日前伺いする機会があつたが、「よく聞いてもらっている」という評価を貰っている。そのような形でほかにも広げていければよいと思う。

担当： タイムについては、やった分だけの費用対効果という見方もあるが、FMゲンキで番組を持っているということをお売りしていただくこともできる。

委員： 通常のCMや誌面広告というだけではない広告ができる。

課長： ストレートに企業のCMではなく、啓発的なものがあるとイメージもよくなる。地域のラジオは相当高い値段だったが、市民のラジオ局なので、市民が参加できる環境にある。もちろん審査もあるが。

担当： ご出演いただく方を広く募集してしまった場合に、与信の問題が出てくる。先日、詐欺事件が発生したことがニュースに出ていたが、容疑者の一人が他局のコミュニティで番組をやっていた。局からするとお客さんなのだが、そのようなものに巻き込まれると、局のダメージが大きい。紹介であったり、地元で長くやっているなど、根拠が必要だと思う。

委員長： スポンサーを依頼するにも慎重にならざるを得ないということか。

担当： 放送は誌面と比べても審査を厳しくせざるを得ない。そのぶん、信頼できる広告ばかりである。

委員長： お店などのイメージをよくするための番組など、そのようなこともあっていいような気がする。

担当： 営業マンが提案する際のメニューが増えることに意味がある。なにか宣伝でお役に立てませんか？という話の中で、あれもある、これもあると話せないと、何もできなくなる。FMゲンキは番組も売るし、フリマガも売るし、ノベルティも作るし、シールも作ってビデオも撮影する。なんでもお手伝いできる。

委員長： GENKIラジオクラブの市民参加について。どんな番組をしているのか？

担当： タイムテーブルに「GRC」を書いてあるのがラジオクラブの番組である。

地域情報番組や音楽番組などが主体である。ボランティアスタッフの視点で伝えてもらっている。パーソナリティがやると、上手だが当事者で無いので深い部分まで伝えきれないことがある。ラジオクラブの番組は、当事者やそれに近いところの人がやるので熱がある番組を作ることができる。

委員長： 局としては評価しているということか。

担当： そうである。しかしラジオクラブの一番の目的は災害時の情報発信である。災害があったときに身の回りの情報を伝えてくれる人をどれだけ抱えているか。ラジオクラブの入会申込書の一番上は、「災害時の情報発信」ということになっている。履歴書の提出、面談を経て入会できる。今は30人ぐらい。姫路中心。

委員： 佐用の水害の時に地域SNSではメンバーが映像を投稿したり情報を投稿したりしていた。会員をしっかりと確保し、地域の情報を伝える人を名簿で持っておく必要がある。そういう情報員制度をつくってもいいのではないか。

担当： 情報員制度ももちろんいいが、日ごろから我々とコミュニケーションをとっておくということも大切であると考え。余力からいっても複数の会員組織を管理できる状況に無い。逆の考えで、通信員が番組制作なども行うというカタチである。家の周りのことでいいので、おしえてほしいと。また、台風などで警戒本部が立ち上がったときは、事前にメール発信をする。「何かあったら情報を提供してほしい」と伝えている。

委員： 災害時の情報はどこからくるのか？

担当： 確定情報は姫路市広報課、もしくは危機管理室である。長期間にわたれば人員の配置を考えて独自情報にも対応できる。防災パーソナリティ制度を設けており、経験があり近距離に居住する4人と事前契約している。災害があった場合で人員が必要になった場合は、この4人から順次連絡を取る。その上で、さらに人員が必要になった場合は他のパーソナリティに連絡をする。災害時の情報発信については、全パーソナリティと契約を結んでいる。それを補完する形でラジオクラブの会員もいる。

委員： 危機管理室からの情報はなにでくるのか？

課長： FAXである。

局長： メールもくる。

委員： ホットラインなどはないのか？

担当： ホットラインもある。直通である。また、当社は災害時優先電話を契約している。固定電話2回線、携帯電話1回線を契約している。普通の電話より優先的に発信ができる。その電話機には赤いシールがはってある。

課長： 姫路市とは災害協定を結んでいる。警報がでたらFMゲンキのスタッフも駐在する。

委員長： 何回ぐらいあるのか？

課長： 大災害は無い。

- 局長： 夏の集中豪雨である。警報が出たら当社の社員が出勤する。夜中でも待機し、市からの情報があれば放送する。年間3回ぐらいある。
- 担当： 警報がでたら、社員全員にメールが回ってくる。呼び出しの優先順位がある。
- 課長： 頑張れば歩ける距離のスタッフが多い。
- 担当： 社員は全員徒歩数十分である。
- 課長： 他局の経験も様々な機会でも教えてもらっている。
- 担当： 災害のシンポジウムなどにも、コミュニティFMが参加することが多いようだ。FMわいわい、FM豊岡、奄美FMなど。また制度がかわってコミュニティFMが基幹放送としての位置づけになるかもしれないという情報も入ってきている。何かあったらしっかり放送できる体制を作っておくようにというものである。
- 委員： 冷蔵庫に誰が見ても分かるようなシールを作って貼ってもらうのも良いのではないか。そのようなものであれば自治会も配ってくれるのではないか。普段の宣伝にもなる。
- 課長： ラジオ新聞には切り取って使えるというのを作っているが。
- 担当： ステッカーは作っているので考えられるかもしれない。その下に広告を入れてという形も取れるかもしれない。
- 委員： B-1開催について、中心の市民にしたら道路混雑などの迷惑が発生することが予想されている。その中で、スマートフォンやインターネットが普及している中、メディアから今の状況などを発信するテストケースにつかえないか。B-1でおいしい物があるという情報はラジオでは伝わりにくいし、食べたいのに渋滞でいけないという反感もある。だからこそ、今周りがどんな状況になっているのか？というテストケースに使ってみるのも良いのではないか。これを地震や災害時に備えた物を考えれば、FMGENKIのよりどころの一つになるのではないか。
- 局長： B-1は菓子博とくらべて短期間である。入場料は要らない。交通情報や駐車場情報は市民にとって必要な情報なので、可能な範囲で対応したい。
- 担当： 交通情報はジャティックからラジオ用として購入している。それをネットに流すのは契約の問題。彼らもネットでやると言うサービスをしているので、そこを違反できない。様々な形でFMゲンキを聞いてほしいというPRをするのは可能。
- 委員： 中心地域以外の道路がどうなっているのか？が分かれば良い。聞いている人にとってのメリットは大きい。
- 担当： 現状は1時間1-2回やっているが、期間中は増えると思う。
- 委員長： 聞いている人にしたら、あと40分しないと聞けないといわれると・・・。
- 担当： 増やしすぎると他のコーナーとバッティングするので調整が必要。

午後3時30分、以上の報告・討議・検討を終了し、閉会した。

公表年月日 平成23年3月13日

公表内容 審議の概要

公表方法 自社放送17時15分～17時45分「GENKI傑作選」内
事務所据え置き、ホームページ (<http://www.fmgenki.jp>)

以上